

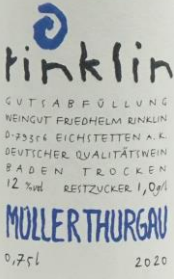



Rinklin リンクリン



カイザーシュトゥール東部のアイヒシュテッテンにある、葡萄畑面積7haの家族経営の醸造所。創業者のヴィルヘルム・リンクリンはバーデン地方のピオロジックの草分け的存在で、1955年、ワインだけでなく様々な農産物を造っていた複合農家だった時にピオロジックに転換し、1971年にピオロジックの農産物生産者団体ピオラントを12人の仲間達とともに創設。そして1975年にはピオロジック農産物の専門商社「リンクリン・ナトゥアコスト」社を設立。現在約250人の従業員が働いている。醸造所はヴィルヘルムの孫の一人フリードヘルムが運営し、奥さんのアンネさんは醸造所が経営する民宿を切り盛りしている。栽培品種はミュラー・トゥルガウ、シュペートブルグンダー、グrauburgンダー、ヴァイスブルグンダー、ムスカテラー、リースリング、ソーヴィニオン・ブラン、レгентなど。収量は40~70hL/haで、白は全房圧搾で澄んだ果汁を得て、ステンレスタンクで大半はシャブタリゼーションをせず野生酵母により発酵する。赤はライン地方の伝統的な楕円形をしたシュトゥック樽かバリック樽で熟成する。年間生産量は約5万本、うち10~15%が日本に輸出される。

2021	5月の遅霜、雹、カビの蔓延で収穫量は例年の20%減。例年より酸度が高い。
2020	猛暑の夏のあと9月に夜間の気温が下がり、赤白ともに優良年となった。収穫量は少ない。
2019	猛暑だが8月初旬の雨で状況は改善。アルコール濃度は2018より低め。
2018	猛暑だが順調に成熟、高収量・高品質、アルコール濃度高め。
2017	遅霜、早い収穫開始、収穫量は少ないが良好な品質。
2016	春は主に雨が降り冷涼であり、夏も降雨は続いたが、乾いて暖かい日が次第に増え、収穫時期はブドウの成熟にとってよい気候となった。
2015	収量は多くはないが、しっかりと果実が熟した。
2014	7月から8月まで平均を上回る降雨が続き、オウトウショウジョウバエの発生などで、選果に多大な労力を割くことになった。

○ Müller-Thurgau trocken ミュラー=トゥルガウ・トロッケン		備考				
	<table border="1"> <tr> <td>畑</td> <td> 品種：ミュラー・トゥルガウ 植樹：2006年頃 位置：標高210m、東向き 土壌：粘土質 </td> <td>醸造</td> <td> 全房圧搾 ステンレスタンクで野生酵母により発酵 ステンレスタンクで5か月間熟成 </td> </tr> </table>		畑	品種：ミュラー・トゥルガウ 植樹：2006年頃 位置：標高210m、東向き 土壌：粘土質	醸造	全房圧搾 ステンレスタンクで野生酵母により発酵 ステンレスタンクで5か月間熟成
畑	品種：ミュラー・トゥルガウ 植樹：2006年頃 位置：標高210m、東向き 土壌：粘土質	醸造	全房圧搾 ステンレスタンクで野生酵母により発酵 ステンレスタンクで5か月間熟成			
● Spätburgunder trocken シュペートブルグンダー・トロッケン		備考				
	<table border="1"> <tr> <td>畑</td> <td> 品種：シュペートブルグンダー 植樹：1987年頃 位置：東~西向き 土壌：粘土質 </td> <td>醸造</td> <td> ステンレスタンクで8日間マセレーション ステンレスタンクとオーク樽（大型の楕円形をしたシュトゥック樽とバリック樽）で10か月間熟成 </td> </tr> </table>		畑	品種：シュペートブルグンダー 植樹：1987年頃 位置：東~西向き 土壌：粘土質	醸造	ステンレスタンクで8日間マセレーション ステンレスタンクとオーク樽（大型の楕円形をしたシュトゥック樽とバリック樽）で10か月間熟成
畑	品種：シュペートブルグンダー 植樹：1987年頃 位置：東~西向き 土壌：粘土質	醸造	ステンレスタンクで8日間マセレーション ステンレスタンクとオーク樽（大型の楕円形をしたシュトゥック樽とバリック樽）で10か月間熟成			